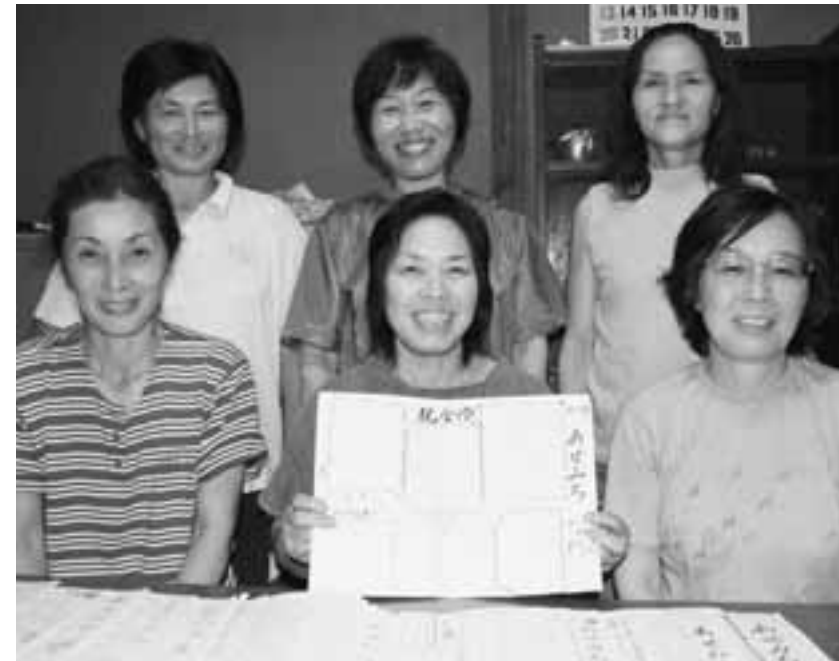


ひと

松橋町浅川地区では、住民による新聞が発行され続けており、今年で15年目を迎えます。新聞の名は「あぜみち」。年に数回、地区の約100世帯に配布され、9月20日以降に第82号が発行される予定です。



「あぜみち」を発行する農協婦人会浅川地区女性部の皆さん。前列右から上田昌美さん、川田桂子さん、上田恵子さん。後列右から村上龍子さん、緒方長子さん、濱田つづ子さん。

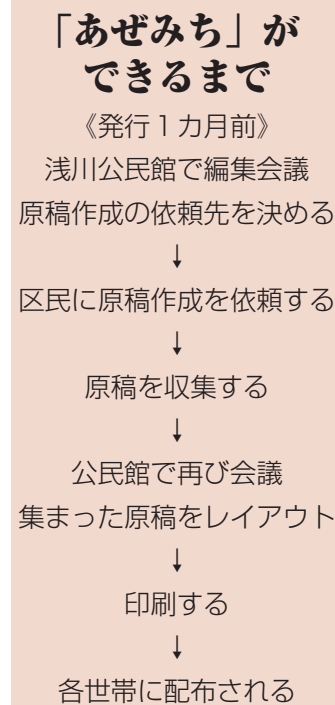
読みやすく、愛される紙面を目指して

名前の由来

「昔は、あぜみちで草取りをしながら、『○○さんの所に赤ちゃんが生まれた』とか『○○さんという人が転入してきた』とか、隣近所のことについてよく話したものです。いわゆる『井戸端会議』ですよ。でも今は、いったんハウスに入ったらそのまま、以前のように住民同士で会話をすることはとても少なくなりました。あのころの良さをずっと忘れずにいよう、そしてそんな身近な話題でいっぱい紙面にしようという思いを込めて、この名前を付けました」と話すのは、発案者である川田桂子さん。

発刊のきっかけ

平成3年に農協の支部長研修



で宮崎県に行った時のこと。研修先の農協女性部が新聞を発行していました。その内容は研修旅行の報告をはじめ、農産物の調理法や新規就農者の紹介など読み応えのあるもの。

「私たちもこんな新聞を作ってみたい」ということで、地元に戻った川田さんたちは、手探りで第1号を発行。以来、月に1回のペースで発行し続け、数年前から「皆ができる時に、できただけ」という気持ちで、仕事の合間を縫って発行するようになりました。

B4判の紙面には、新生児・成人者・金婚夫婦などの紹介、旬の野菜を使った調理法、地区の出来事など、盛りだくさんの内容。「お寺の住職による説法なども掲載しています。普段なかなか聞く機会がないので区民の皆さんに好評です」

大変だけど楽しい

「原稿作成をお願いしたら、ありがたいことに皆さん快く引き受けてくださいます。断られたことは今までに1度もありませんでした。毎回大変なことは、提出していただいた原稿を紙面上で並べること（レイアウト）です。原稿のほとんどが自筆なので、それらを切り貼りして読みやすく並べます。難しくもあり、楽しい作業です」

一念発起して始めた新聞作りにもかかわらず、諸事の理由で断念する団体が多い中、浅川地区女性部の皆さんは順調に発行し続けています。長く続けることができた秘訣は、区民に原稿作成を依頼することに加え、「無理は禁物」という考え方にあります。

「『読んだよ』という声が届く。100号発刊するのが当面の目標です」と語る皆さん。「あぜみち」は今日も、区民に笑顔と喜びを届け、住民同士をつなげています。

派遣職員の東京見聞録

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は熊本県東京事務所企業誘致課の内富裕登さんです。

先日、液晶テレビで世界の亀山モデルを生み出したシャープ亀山工場の視察と亀山市の誘致手法を学ぶため、三重県亀山市へ行きました。三重県と亀山市はシャープを誘致するために、巨額の補助金制度を設立。視察するまでは、これが進出の決め手だったに違いないと思っていましたが、実はほかに理由がありました。ハード面はもちろんですが、ソフト面の中でも特に、市と県との連携、そして、市役所の窓口の一元化、いわゆるワンストップ行政サービス（1つの窓口でさまざまなサービスを、複合的に提供すること）による迅速な企業への対応が決め手だったそうです。

宇城市では4年間で1,000人の雇用創出を目標に、日々、雇用対策課と東京にいる私で企業誘致に向けて奮闘しているところですが、現実にはなかなか…。成功例との違いは何か…それは「連携」「スピード」「信頼」、そして仕事に対する「熱意」です。

今しなければならぬ仕事をたらい回しにして先送りしたり、計画倒れで実行が伴わなかったりすれば、どんなにいい条件を提示しても企業は進出してきません。皆さんも、相手の立場になって仕事に取り組まれば、きっと先に述べた4つのキーワードの必要性に気付かれると思います。これは、市役所のどの仕事に対しても当てはまることではないでしょうか。

市民から頂いた税金は市民へ還元するのが自治体の責務です。その市民やお客さまに対し、横軸の連携を強化し、いかに適切な行政サービスを提供できるかが、これからの宇城市にとって大きな課題だと思います。

市民ボーターの目「夢、育む布絵本」

小川図書館では毎月2回、布絵本サークル「リール」の皆さん（会員8人）が布絵本を作っています。

古賀結美子

今から6年前、図書館利用者の一人であった川口照子さんが「布絵本を作ってみませんか」と声を掛けたのが始まりでした。図書館スタッフと手作り好きな数人が集まって、持ち寄りの残り布や娘の幼いころの衣類などで作った「しりとり遊び」が記念すべき第1作になりました。以来、出来上がった作品は30点ほど。

近年、オリジナル作品にも挑戦していて取材当日は、12カ月シリーズで「布迷路」を製作中でした。下絵（型紙）を描き、それにふさわしい布や糸の選択に皆で意見を交わしながら和気あいあいの中にも真剣です。9月は「お月見」10月は「運動会」の「迷路」が出来上がります。この「布迷路」で遊ぶ子どもたちの様子を想像しただけで

ワクワクします。

布絵本の魅力は、立体的でカラフルで丈夫で夢とメルヘンに満ちあふれていることでしょうか。目で見て、手で触れてみると緻密で丁寧な作りの中に温かさが感じられます。一針一針に込められた作品への意欲と愛情に圧倒されてしまいました。

皆さん口をそろえてこの活動は「楽しい、苦にならない」と言われます。布絵本は「特別貸し出し」として保育園やお話のグループや小学校の仲良し学級でも利用されています。もちろん個人貸し出しも可能です。一度、小川図書館の「布絵本」に触れてみませんか。



宇城市 友達の輪

今月は豊野町糸石の清成ユリ子さん(82歳)です。

① 日々の過ごし方は？

朗読や社会福祉協議会のデイサービスなど、地域のボランティア活動をしています。

② 趣味は？

フラダンスや押し絵、コーラスなどいろいろあります。特に音楽鑑賞は、クラシックやジャズなど幅広く楽しんでいます。

③ 最近凝っているものはありますか？

フラダンスに凝っており、月に3回教室に通い6年になります。11月の文化祭や熊本地区で来年行われるフラフェスティバルに向けて練習しています。

④ 夢は何ですか？

東京に住むひ孫の成長が楽しみです。

⑤ 何かメッセージはありますか？

婦人会の弁当配布など地域の福祉活動に大変感謝しています。おかげさまで、健康で自分自身もボランティア活動ができることに感謝しています。

⑥ 次回は誰を？

豊野町の人を紹介します。

